

令和7年度 八富成田斎場管理運営連絡協議会会議概要

1. 開催日時

令和8年1月30日(金) 午後2時00分～午後2時27分

2. 開催場所

成田市花崎町760番地 成田市役所6階中会議室

3. 出席者

(委員)

小泉会長(成田市長)、

北村副会長(八街市長)、五十嵐副会長(富里市長)、宮田副会長(成田市副市長)

神崎 勝委員、海保委員、神崎 利一委員…(成田市議会選出)

丸山委員、林委員…(八街市議会選出)

鈴木委員、岡野委員…(富里市議会選出)

(事務局)

成田市 金光環境部長、環境衛生課:野口課長、木村主幹、高柳主査

環境計画課:稲阪課長、栗田主幹

八街市 和田経済環境部長、環境課:宮内課長、十川副主幹

富里市 細野経済環境部長、環境課:藤田課長、綿貫主幹

4. 議題

(1)令和7年度八富成田斎場維持管理費決算(見込)について

(2)令和8年度八富成田斎場維持管理費当初予算(案)について

(3)その他

5. 議事

【議題(1)令和7年度八富成田斎場維持管理費決算(見込)について】

歳入について、歳入合計で予算現額 2 億 78 万 7,000 円に対し、収入見込額 1 億 9,156 万 2,000 円で、予算との比較で 922 万 5,000 円の減額となります。

内訳として、負担金が予算現額 1 億 5,776 万 9,000 円に対しまして、収入見込額 1 億 4,928 万 5,000 円となり、848 万 4,000 円の減額となります。

本斎場の管理運営に係る経費は、斎場事務の委託に関する規約により、成田市の歳入歳出予算に計上し、予算執行を行っております。また、同規約により、各年度において、その委託事務の管理及び執行に係る予算に残額のある場合においては、これを翌年度における委託事務の管理及び執行に要する経費として繰越して使用するものとしております。令和6年度決算に基づく予算残額がありましたので、これを令和7年度に繰越して使用することにより、各市の負担金も減額となります。

なお、令和6年度の予算残額の理由としては、光熱水費のうち電気・ガス料金が、国による料金支援により軽減されたことや、通夜を省略した一日葬が増え、通夜対応業務の件数に応じて支払う指定管理料が減額となったこと、また、令和5年度より継続事業として実施した受変電設備改修工事の落札差額による減額などであります。

次に、斎場使用料等が予算現額 4,301 万 8,000 円に対し、収入見込額 4,227 万 7,000 円となり、74 万 1,000 円の減額となります。こちらは、式場の使用件数などが昨年度と比較して若干減少傾向となっていることによるものです。

歳出について、歳出合計で当初予算額 2 億 78 万 7,000 円に対しまして、支出見込額 1 億 9,599 万 2,000 円で、不用見込額は 479 万 5,000 円となります。

内訳として、報酬が市議会選出の委員7名の報酬で、予算現額 5 万 4,000 円と同額の執行見込となっております。

需用費は、光熱水費で 149 万 6,000 円の不要見込額となっておりますが、これは、電気・ガス料金が国による料金支援により軽減されたことによるものです。

修繕料は予算額どおりの執行見込で、毎年行っている火葬炉修繕では、今年度は火葬炉本体・排ガス処理設備の熱による損傷箇所を修繕するほか、バーナーなど燃焼設備の一部部品交換を行っております。

役務費は、電話料金、インターネット使用料や検査手数料、保険料などで、キャッシュレス決済手数料の減額により 11 万 6,000 円の不要見込額となっております。これは、キャッシュレス決済の導入準備に時間を要し、導入が本年 10 月からとなったことによるものです。

委託料は、通夜業務の件数減少に伴う指定管理料の減額や、機器保守管理委託における落札差額などにより、317 万 8,000 円の不要見込額となっております。

使用料及び賃借料は、キャッシュレス決済導入時期の関係で、決済用端末の使用料が減額

となり 5,000 円の不用見込額となっておりますが、概ね予算額どおりの執行見込となっております。

議題1に関する質問は以下のとおり。

(○意見や質問、◆意見や質問に関する回答)

○海保委員 キャッシュレス決済が10月から導入とのことだが、通常であれば金融機関等との準備を済ませたうえで予算を計上するのではないか。

◆事務局 年度当初から導入が可能なものと見込んでいましたが、決済用端末の通信環境が悪く、改善する作業が必要となったほか、斎場関連の使用料・手数料の種類が多く、現場の吉倉管理組合との調整などに時間を要したことから、導入時期が遅れたものです。

議題1は賛成全員で承認された。

【議題(2)令和8年度八富成田斎場維持管理費当初予算(案)について】

歳入について、令和8年度当初予算額合計が2億52万4,000円で、令和7年度当初予算と比較しまして、26万3,000円の減額となっております。

歳入予算のうち斎場使用料等について、斎場使用料等全体で4,399万8,000円を見込み、前年度と比較して98万円の増額となります。説明欄にそれぞれの見込み件数を記載しておりますが、直近の実績件数及び平均使用料金から予算を計上しております。増額となった理由といたしましては、主に火葬件数の増加によるものです。

負担金は、令和8年度歳出予算案の総額、2億52万4,000円から、令和8年度歳入予算案のうち負担金以外の歳入である斎場使用料等の額4,399万8,000円を差し引いた、1億5,652万6,000円が3市の負担金の合計となります。

負担割合につきましては、均等割20%、人口割20%及び火葬件数の利用割60%となっており、各市の人口と火葬件数から割合を算出し、右下の表のとおり各市負担金を計上しております。負担金の合計額は、成田市が7,317万4,769円、八街市が4,843万2,047円、富里市が3,491万9,184円となります。

負担金の前年度との比較では、3市合計で124万3,000円の減額となります。

令和8年度歳出について、予算総額及び前年との比較増減は、歳入予算案と同額です。

報酬は市議会選出の委員7名分の報酬として5万4,000円で、前年度と同額となります。

需用費は 6,607 万 8,000 円で、前年度と比較し 148 万 8,000 円の減額となります。消耗品費では毎年予算が不足傾向であったことから増額しておりますが、決算額ベースで計上している光熱水費は減額しており、また、修繕料においては毎年実施している火葬炉修繕のほか、一般的な修繕のみを見込む中で令和 7 年度比では減額となっております。

なお、成田市では 2050 年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指すゼロカーボンシティ宣言を表明しており、その取り組みの一環として、脱炭素社会づくりを推進するための基盤として基金を設置し、この基金を活用しながら、斎場で使用するガスを来年度よりカーボンオフセット都市ガスへ切り替えたいと考えております。カーボンオフセット都市ガスとは、都市ガスの採掘から燃焼までの各工程で排出される二酸化炭素を、別の場所での環境保全活動により相殺する仕組みを有する都市ガスのことであり、切り替えることによりガス由来の二酸化炭素排出量を実質ゼロとすることができるものです。このカーボンオフセット都市ガスへ切り替えることでガス料金単価が上がり、光熱水費を増額する必要がありますが、二酸化炭素排出量削減の効果は全て成田市のものとなるため、増額分の費用はこの予算案からは控除し、成田市単独で負担することとしております。

役務費は 161 万 9,000 円で、前年度と比較し 28 万円の増額となります。ここでは通信運搬費において Wi-Fi 環境の整備費用を新たに計上しております。

この Wi-Fi 環境整備ですが、当斎場は周辺地形や建物の構造的な問題から場内の通信環境が悪く、利用者から環境改善の要望を受けていることから、利便性向上を目的に実施するもので、Wi-Fi 機器の設置に関する費用も、この通信運搬費に含まれております。

委託料は 1 億 2,924 万 2,000 円で、前年度と比較し、85 万円の減額となります。これは斎場予約システムの改修作業を委託しておりますが、改修内容の違いにより減額となっているものです。

使用料及び賃借料は 166 万 4,000 円で、前年度と比較し、7 万 2,000 円の減額となっております。こちらはキャッシュレス決済用端末の導入初期費用が来年度は不要となることによるものです。

工事請負費はトイレ洋式化改修工事を行うため 186 万 7,000 円を計上しております。斎場にはトイレが 2 か所ありますが、式場側の女子トイレが和式のみとなっており、昨年の協議会においても委員からご意見をいただいたところですので、全面洋式化を行う予定としております。

令和8年度予算案についての説明は以上となりますが、関連で一点説明させていただきます。

成田市では霊柩車の運行と祭具の貸出し事業を行っておりますが、近年使用件数が減少していることから事業の廃止を検討しております。本事業は主に自宅葬を行う場合の使用を想定したものでありますが、近年、式場を使用した一般葬や家族葬などを選択する方が多く、本事業の利用者は大きく減少し、令和6年度には、霊柩車の運行件数は火葬件数の7%の94件まで落ち込み、祭具の貸出しは実績なしの0件となっております。

霊柩車、祭具ともに市外の方も使用が可能で、霊柩車は年間数件ですが、八街市民、富里市民にも使用されている状況です。

霊柩車に関しては少ないながらも一定の需要がありますが、民間事業者の状況を調査したところ、事業者による霊柩車の保有率が高く、サービスも充実しており、その費用も大幅に高額なものではなかったことから、霊柩車の運行は民間事業者の手に委ねることが適当であると判断し、また、祭具の貸出しに関しても、市が貸出しを行う社会的な役割を終えたものと考え、事業を廃止しようとするものです。

事業廃止のスケジュールは、本年3月の成田市議会定例会で条例の廃止を提案し、提案通り議決いただいた際には、約半年の周知期間を設けたうえで、本年10月1日付で廃止条例を施行し、事業廃止とする予定です。

また、本事業の廃止により生まれる財源を活用し、八富成田斎場利用者の利便性に繋がる整備を行うことで、サービスの向上を図る考えであり、成田市総合計画の中の実施計画にもこのことについて位置付けを行い、推進することとしております。

トイレの洋式化やWi-Fi環境整備も、この利便性向上に繋がる整備の一環の取り組みとなっております。

これらを斎場運営の予算に組み込むとなると、成田市のみならず、八街市、富里市にも費用を負担していただくこととなりますが、斎場利用者全体へのサービス向上に繋がるものでありますので、ご理解くださいますようお願いいたします。

議題2に関する質問は以下のとおり。

(○意見や質問、◆意見や質問に関する回答)

○海保委員 Wi-Fi環境やトイレ洋式化はどこへ行っても通常となっている中、今になって予算化する背景は。一方で、霊柩車について約50万円の歳入に対し約600万円の歳出

となっている中、自宅葬が減少する社会的状況は以前からあったと思うが、廃止の時期が今になった理由は。

- ◆事務局 八富成田斎場は、周辺地形や建物構造などの要因により、施設内で携帯電話が非常に繋がりづらい状況にあり、利用者を対象に行ったアンケートにおいても同様の意見が寄せられていることから、Wi-Fi環境を整備したいと考えております。

トイレの洋式化は平成27年に一部改修を行いました。が、式場側の女子トイレが和式のみとして残っており、昨年の本協議会においてもご意見をいただいたため、予算案として計上しているところです。

霊柩車については令和元年度以降の使用件数が減少傾向にあり、コロナ禍による影響もあったと思われることから、その後の状況を注視してまいりましたが、コロナ禍が落ち着いた後も使用件数の回復は見られないため、昨年より事業廃止に向けた調査・検討を進めた結果、このタイミングでの事業廃止の提案となりました。

議題2は賛成全員で承認された。

【議題(3)その他】

特に意見なし

6. 傍聴

1人